

# 令和6年第10回沖縄県教育委員会（定例会）議事録

## 1 開会及び閉会に関する事項

令和6年7月25日 午後3時開会  
午後3時31分閉会

## 2 出席者及び欠席委員の氏名

### (1) 出席者

教育長	半嶺 満	委員	小濱 守安	委員	比嘉 佳代
委員	大城 進	委員	宮城 光秀	委員	辻上 弘子

### (2) 欠席委員

なし

## 3 説明のため会議に出席した職員の職氏名

教育指導統括監	崎間 恒哉	参	事	諸見 友重
参	事	宮城 肇	総務課長	平田 直樹
学校人事課長	池原 勝利	学校人事課	県立学校人事管理監	山城 芳則
県立学校教育課長	屋良 淳	県立学校教育課	特別支援教育室長	浦崎 達夫
義務教育課長	新城 高広	義務教育課	幼児教育班指導主事	棚原 直樹

## 4 議事関係

### (1) 開会

半嶺教育長が開会を宣告した。

### (2) 非公開の決定及び議事日程の決定

議案第1号は人事に関する案件であることから、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第14条第7項の規定により非公開とすることが全会一致で決定された。また、議事日程は会議資料記載の日程案のとおりとすることが決定された。

### (3) 令和6年第9回議事録の承認

全会一致で、令和6年第9回議事録を承認した。

### (4) 議事録署名人の指名

半嶺教育長が比嘉委員を議事録署名人に指名した。

### (5) 報告事項

報告事項1 令和7年度沖縄県立高等学校入学定員について

【説明（県立学校教育課長）】

令和7年度沖縄県立高等学校入学定員について資料に基づき、報告を行った。

【質疑等】

○宮城委員：通信制について、近年、定員を大きく上回る希望者がいますが、通信制の定員の見直しは行わないのでしょうか。

○県立学校教育課長：通信制を選択する生徒数は直近3、4年増加しております。ただし、生徒たちが通信制での学びを選択する理由が、例えば、コロナ禍の影響か、それとも、生徒たちの学びのあり方そのものが変わってきているのか、状況を判断するためには、分析が必要ですので、もうしばらく動向を見たいと考えております。現時点では現状で確保しておく必要があると考えております。

○大城委員：前年度から増減なしとした入学定員の提案については、令和7年度の入試対象生徒数の減少、各教育機関への進学状況、更に令和6年度の入学者選抜結果等から妥当と考えます。また、本県ホームページの昨年度入試選抜結果の二次募集実施関連データから、学校単位で全県立高校の約7割で定員不足が読み取れますが、定員割れの学校の設置学科、定員を含め、全て前年度同様とされたことから、庁内担当課の国、県、財務担当課との予算折衝等に御努力と御苦勞が読み取れ、評価したいと思います。そこで質問ですが、1学級人数分を超える又はそれに近い不足に伴う10人未満の生徒数からなる編成実施等について、例えば実際に普通科の教育課程の転換に伴う課題と授業実施の工夫等があるのでしょうか。

○県立学校教育課長：生徒数の少ない高校においては、生徒数の確保、それから、学校行事の円滑な運営等が課題となっております。地域コミュニティとの距離が近い学校が多いことから、地域連携を深め、地域性を生かした魅力ある学校づくりを行っています。例えば、辺土名高校は立地自体が世界遺産登録された地域ですので、その特異性を活かした魅力ある教育課程を編成し、学校独自の創意工夫をしています。県教育委員会としても、辺土名高校に対して、環境教育の研究指定校に指定するなど、応援支援を行っているところです。また、離島では久米島高校において、町営学習塾の久米島学習センター開設や、ハワイへの短期留学へ3名ほどの派遣など、久米島町の応援支援を多く受けていると聞いています。学校としては、園芸科が空港を生け花で飾り観光客に対してのおもてなしや、保育園児との生産物の収穫体験交流会など、授業を通して地域交流を盛んに行っており、学校独自に頑張っているところですので、教育委員会としても応援していきたいと考えております。

○大城委員：わかりました。御承知の通り、高等学校においては生徒の多様化への対応、並びに質の確保の観点から、一定の学級規模や、クラス定員は必要です。該当校の定員充足率の改善に向けては、該当地域それぞれの実情や課題もあり、その解決にはある程度の期間を要するとは思いますが、所管課には庁内関係課と連携し、今後とも一層の学校支援並びに中長期的な学校と地域の連携、協力体制構築の御助言をお願いしたいと思います。

報告事項2 令和7年度沖縄県立特別支援学校高等部（高等支援学校等・専攻科）入学定員について

【説明（県立学校教育課長）】

令和7年度沖縄県立特別支援学校高等部（高等支援学校等・専攻科）入学定員について資料に基づき、報告を行った。

【質疑等】

- 大城委員：令和6年度の併設型高等支援学校の入学希望者数と各定員との関係を御教えます。
- 県立学校教育課特別支援教育室長：高等支援学校等の倍率に関して、沖高特支の就労技術の就労技術コースが1.3倍、福祉コースが1.8倍、陽明高支の総合産業科が1.6倍、南風原高支の産業科が1.5倍、中農高支の総合実務科が1.7倍です。その他のやえせ、名護、大平に関しては定員を割れている状況になっています。
- 大城委員：不合格者は12月に新たに定員決定される他の特別支援校の高等部の二次募集に応募するのでしょうか。全員が高等部で学べるのでしょうか。
- 県立学校教育課特別支援教育室長：高等支援学校と特別支援学校の高等部を受験するに当たっては、基本的に二次募集も含めて、志願前相談を受けるということが条件になっており、志願前相談を受けた不合格の生徒については、特別支援学校の高等部の二次募集で受け皿を確保しており、二次募集を受けて入学します。
- 大城委員：先日、南部商業高等学校と同敷地併設のやえせ高等支援学校における交流及び共同学習推進に関する活動の一端を視察しました。障害の有無に関わらず、誰もが相互に人格と個性を尊重し合える共生社会の実現を目指す上で、相互が理解し合うことが不可欠と言われますが、そこでの生き生きした生徒一人一人の表情に接し、ともに活動する機会を設けることの重要性を実感しました。所管課には、今後一層の交流及び、共同学習の推進に期待をしております。

報告事項3 教育委員会の権限事務に係る教育長の臨時代理（県議会議案「沖縄県幼保連携型認定こども園以外の認定こども園の認定の要件に関する条例の一部を改正する条例」に対する意見）について

【説明（義務教育課幼児教育班指導主事）】

教育委員会の権限事務に係る教育長の臨時代理（県議会議案「沖縄県幼保連携型認定こども園以外の認定こども園の認定の要件に関する条例の一部を改正する条例」に対する意見）について資料に基づき、報告を行った。

【質疑等】

- 小濱委員：今回の改正で、保育士1人で3歳児20人の基準から保育士1人で3歳児15人

に改正され、子どもにとって良い環境になると考えられます。しかし、現状はようやく待機児童が0になり、全国的に保育士が足りない中で、新たな基準へ改正すると、保育園、こども園にとって負担になるのではないのでしょうか。

○義務教育課幼児教育班指導主事：今回の条例改正は、国の基準の改正に伴う改正です。県としても、当分の間は難しい旨を申し上げております。保育士不足に関しては、こども未来部子育て支援課が対応しています。附則第2項にて、当分の間は3歳児 20 対 1、4歳児、5歳児については 30 対 1 の特例を設けております。ただし、保育所等については運用で加算の対象があり、例えば 20 対 1 から 15 対 1 にした際に差額分の加算措置等があるため対応できていると考えられると子育て支援課から回答がありました。

○小濱委員：全国的な保育士の数は、まだまだ追いつかないですので、現場に負担がかからない対応をお願いしたいと思います。

○比嘉委員：この配置基準を施行するにあたって、3歳児や4歳児の行き場所が減り待機児童が増えることが懸念される市町村もあると思いますが、どのように対応するのでしょうか。

○義務教育課幼児教育班指導主事：令和5年4月1日現在、県内保育所等の約 21.7%に当たる 192 施設において、定員に必要な保育士 420 人が確保できていない状況ですが、子育て支援課は今後も保育士不足について対応を続けていくと伺っております。また、私たち義務教育課幼児教育班が持っている市町村幼児教育担当者連絡協議会、それから子育て支援課が持っている市町村の連絡協議会がオンラインで開催されております。採用に関しては市町村や園の採用ですが、周知をしており、今後も続けていきます。

○比嘉委員：子ども達に負担がかからない、待機児童が増加しないように市町村で進めるよう県が指導しているということでしょうか。

○義務教育課幼児教育班指導主事：はい。

議案第1号 学校職員の人事について（非公開）

(6) その他  
特になし

(7) 閉会  
半嶺教育長が閉会を宣言した。